（別紙２）

論文審査の結果の要旨

氏名　臼山利信（うすやま・としのぶ）

日本の中等教育における英語以外の外国語教育については，すでに文部省による調査統計の他に個々の教育機関等による散発的な報告があるが，現場に即した全国的規模での調査が皆無であることから，その全体像を把握するには至っていなかった。本論文は，著者自らが行った全国規模での初めての調査を基に，現在の日本の中等教育における英語以外の外国語教育という全体的な枠組みの中でロシア語教育を位置づけ，その現状と成果・課題を考察したものである。

本論文は，本編と資料編の２部から成っている。本編第１章においては，英語以外の諸外国語の設置の理念・経緯に関しての類型化を通して中学校と高等学校との性格のちがいが明らかにされ，全体として「教養教育」から「国際・異文化教育」へという大きな構造的変化が見られることが具体的に指摘された。第２章の前半においては，高等学校におけるロシア語教育について，北海道・東北・北陸地域とそれ以外の地域（主として関東）とでは設置理念において性格を異にすること，また，ロシア語の開設が他の諸外国語に比して比較的最近の新しい現象であることが明らかにされた。第２章の後半においては，ロシア語教育の現場に焦点を当て，教師と生徒の双方を対象としたアンケート調査を基に，教育・学習成果と問題点について考察がなされ，今後の具体的課題が抽出された。さらに，「国際教育」の一環としての学校単位でのロシアとの交流の現状も明らかにされた。資料編においては，ロシア語設置校に関する調査取材の基礎データ，学習現場を対象としたアンケートなどの基礎資料が収められている。

本論文は，著者自らによる調査により得られたデータを基に分析・考察されたものであるが，調査，特にアンケートの方法とそのデータ処理に関して再考を要する点がないとは言えない。しかしながら，日本の中等教育における英語以外の外国語教育についての全国規模の調査そのものが初めてなされたことの社会的意義と同時に，具体的資料を踏まえた分析と考察を通して抽出された結果は，中等教育のみならず大学段階での語学教育のカリキュラム，教授法，教材開発，さらには，日露言語対照論などの分野の研究に新たな視点から貢献する学術的意義を有するものである。よって，審査委員会は，本論文が博士（文学）の学位に相当するものと判断する。